

# ご近所のお医者さん

□  
450  
□

北野病院  
循環器内科副部長

中根英策さん

＝大阪市北区

## 高齢心不全患者

心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割をしています。心不全とは、心臓のポンプ機能(心機能)が悪くなり、血液が十分に送り出せなくなった状態を言います。症状は、心不全の初期では手足のむくみや歩行での息切れで

## 地域で守る取り組みを

すが、さらに悪化しますと息切れを感じるまでの歩行距離が徐々に短くなり、ついにはじっとしていても息苦しくなってきます。

心機能を悪化させないためには、心



臓に負担をかけないことが重要ですので、心不全患者さんに対して、私たちは心臓に負担がかからないように薬を調整しています。しかし、何らかの原因(半数は自己管理不足)で入院が必

管理ができていないことです。そのため、私たちが患者さんにとって最適な治療を行っても、患者さん自身が自己管理できなければ再入院を防ぐことはできません。

再入院を防ぐためには、①決められた自己管理の内容を守る②心不全が悪化した時に早く気付いて、かかりつけの病院や診療所を早く受診する——こ

要なほど心臓に大きな負担をかけ、心機能や心不全症状を悪化させてしまいますと、入院治療でいくら症状を改善できても、心機能は元の水準まで戻りません(心機能は一段階悪化します)。

このように、心不全は再入院を契機に心機能が徐々に低下して、結果として患者さんの寿命を縮めますので、再入院を防ぐことが重要となります。再入院の原因の約半数は、水分制限や塩分制限、薬をきちんと飲むなどの自己

不全患者さんが増えているため、ご自身での自己管理が困難な場合が多くなっています。そのため、患者さんに在宅で普段関わっている訪問看護師やケアマネジャー、ヘルパーさんなどと協力して、自己管理ができる環境づくりや、患者さんの代わりに心不全の悪化に早く気付いて、かかりつけの病院や診療所への受診のサポートをしていたことで、高齢心不全患者さんの再入院を防ぐ取り組みを行っています。

とが重要  
です。た  
だ最近  
は高齢の